

霧島山の火山噴火の歴史

約34万年前	現在のえびの市・湧水町を含む地域で大規模な噴火が発生。周辺には大量の火砕流が堆積し、加久藤カルデラができた
約30万年前～3万年前	栗野岳などの古い火山を土台として、白鳥山、大浪池や ^{ひなもりだけ} 夷守岳などの火山が活動した
約3万年前	シラス台地をつくった大噴火(始良カルデラの噴火)によって、霧島一帯にシラスが堆積 桜島はこの後に活動を始めた火山である
約3万年前～17,000年前	飯盛山、甑岳や韓国岳などの火山が活動した
約17,000年前～7,300年前	韓国岳が大きな噴火をして、現在の姿をつくった。南東部では古高千穂峰が活動を始めた
約7,300年前	鬼界カルデラの噴火による火山灰が霧島山周辺に堆積した
約7,300年前～歴史時代	高千穂峰が完成した後、約4,600年前に御池が大噴火した。大幡山や不動池でも溶岩を伴う噴火活動があった
歴史時代以降	約1,500年前に活動を開始した御鉢が成長。新燃岳が再び噴火を始め、えびの高原では硫黄山ができた

(気象庁ホームページより抜粋)

噴火のあった日	噴火した山	被害・内容
742(天平14)年12月28日	御鉢	12月28日から4日間
788(延暦7)年4月18日	御鉢	片添スコリア噴火
1112(天永3)年3月9日	新燃岳	神社消失
1235(文暦元)年1月25日	御鉢	高原スコリア噴火、溶岩流出
1566(永祿9)年10月31日	不明	死者多数
1637～1638(寛永14～15)年	新燃岳	野火起こり寺院消失
1716(享保元)年11月9日	新燃岳	死者5人、負傷者31人、神社仏閣消失、消失家屋600余軒、牛馬405頭死。 約300年前(1716年)の新燃岳噴火のことが書かれた狭野神社文書
1717(享保2)年2月	新燃岳	2月7～10日、13日、17～21日に噴火や火砕物の降下
1717(享保2)年9月19日	新燃岳	準プリニー式噴火、火砕流発生
1768(明和5)年	硫黄山	硫黄山の形成
1771～1772(明和8～9)年	御鉢	降灰
1822(文政4)年1月12日	新燃岳	噴煙、新燃岳の7～8合目に4つの新しい火口を発見
1895(明治28)年10月16日	御鉢	死者4人、噴石、火災(家屋22軒で出火)
1895(明治28)年12月18日	御鉢	噴石、降灰
1896(明治29)年3月15日	御鉢	死者1人、噴石
1900(明治33)年2月16日	御鉢	死者2人、重症者3人、噴石
1903(明治36)年11月25日	御鉢	噴石、震動
1913(大正2)年11月8日、12月9日	御鉢	噴石、降灰
1914(大正3)年1月8日	御鉢	噴石、降灰、空振
1923(大正12)年	御鉢	死者1人
1934(昭和9)年春以降	新燃岳	火口湖の水が混濁、水底よりガスが発生し、草木が枯れる
1959(昭和34)年2月17日	新燃岳	噴石、降灰、農産物への被害
1991(平成3)年11月24日	新燃岳	微噴火



約300年前(1716年)の新燃岳噴火のことが書かれた狭野神社文書



1959(昭和34)年の新燃岳噴火

これまでの経過

2007(平成19)年 11月9日(金)	霧島山を中心に広がる鹿児島・宮崎両県の5市2町(霧島市・曾於市・湧水町・都城市・小林市・えびの市・高原町)が、県境を越えた広域連携を目指すために「環霧島会議」を発足
2008(平成20)年 8月22日	小規模な噴火が発生。小林市方面へ降灰。その後、噴煙活動が続く 気象庁、噴火警戒レベルを2(火口周辺規制)へ引き上げ
10月29日	気象庁、噴火警戒レベルを1(平常)へ引き下げ
2009(平成21)年 3月	環霧島会議の防災専門部会を8回開催し、8つの関係機関(5市2町、国土交通省宮崎河川国道事務所)と鹿児島大学井村隆介准教授の監修を受けて、 霧島火山防災マップを作成
9月	霧島火山防災マップを牧園、霧島地区に配布
2010(平成22)年 3月30日	3月30日、4月17日、5月27日に小規模噴火 気象庁、噴火警戒レベルを2へ引き上げ
4月16日	気象庁、噴火警戒レベルを1へ引き下げ
5月6日	気象庁、噴火警戒レベルを2へ引き上げ
2011(平成23)年1月19日(水)	(1:27)小規模な噴火が発生
1月22日(土)	(7:30)小規模な噴火が発生



新燃岳が火口となった場合の災害区域予測図

1月26日(水)	(7:31)小規模な噴火が数回発生 (15:30)灰白色の噴煙が火口縁上1500mまで上がる (15:40)新燃岳の隣の中岳への登山道を規制(鹿児島県・霧島市) (16:00)第1回霧島市火山対策会議 (17:00)第2回霧島市火山対策会議 (18:00)気象庁が 噴火警戒レベルを2(火口周辺規制)から3(入山規制) に引き上げ、火口から 半径2km以内立ち入り禁止 (霧島市)。 霧島市災害警戒本部設置 (18:10)県道480号線の一部と県道104号線を通行止め(鹿児島県・霧島市) (18:50)灰白色の噴煙が火口縁上2000mまで上がる 健康相談窓口を本庁、牧園・霧島両総合支所に設置
1月27日(木)	(7:30)大浪池への登山者用に注意啓発チラシ配布 (9:00)第1回霧島市災害警戒本部会議 (11:00)市長、副市長、関係部長など現地視察 (15:41)爆発的噴火(1回目:火口縁上2500m以上、39.7pa)が発生 (17:00)霧島地区別荘地(神宮台)住民に自主避難についてのチラシを全戸配布 (17:00)鹿児島県が災害警戒本部設置 (17:00)霧島火山防災連絡会コア会議(高原町) (18:05)霧島総合支所に自主避難1人(28日帰宅) (18:10)市道永池湯之野線の一部を通行止め(霧島市) (18:30)霧島地区で降灰と硫黄臭確認 入山規制看板建て替え(大浪池、県境)(霧島市)
1月28日(金)	(午前中)霧島地区で大気調査を実施 災害時要援護者施設へ避難方法などの準備依頼のため訪問による説明 (12:47)爆発的噴火(2回目:火口縁上1000m以上、81.8pa) 霧島市災害警戒本部長(総務部長)、安心安全課長、現地確認 (16:00)第2回霧島市災害警戒本部会議 (17:00)霧島地区の全自治会、霧島地区別荘地(神宮台)住民へ火山活動や健康被害、自主避難などのチラシ配布
1月29日(土)	(午前中)牧園地区住民へ噴火情報のチラシを全戸配布 高千穂地区自治会長へ要援護者等の自主避難対応依頼 大島章宏国土交通大臣現地視察、霧島市から要望書提出
1月30日(日)	(9:30)松本龍環境大臣兼内閣府特命防災担当大臣現地視察、霧島市から要望書提出 火口に蓄積した溶岩が直径500m程度の大きさに成長 (13:57)爆発的噴火(3回目:噴煙の高さ不明、21.7pa) (22:00)火山対策連絡要員招集
1月31日(月)	(1:35)気象庁が火口周辺警報を発表、 立ち入り禁止区域を2kmから3kmに拡大 (霧島市) (9:00)第3回霧島市災害警戒本部会議 (11:40)立ち入り規制拡大により、大浪池への入山を規制(霧島市)。これにより霧島山への入山ができなくなった 霧島地区別荘地(神宮台)住民へ自主避難についてのチラシを配布 各総合支所から新燃荘、みやま荘の関係者へ状況説明を行う
2月1日(火)	(7:54)新燃岳で発生した爆発的噴火(4回目:火口縁上2000m、458.4pa)により、約70cmの噴石が新燃岳火口から3kmを超えて飛散 空振による被害が発生 。建物のガラスが割れる被害が多数。145施設、ガラス552枚 (8:00)霧島保健福祉センターを一時避難場所として開設 避難者10人(同日10時30分帰宅) 霧島地区別荘地(神宮台)住民と霧島ハイツ宿泊者にチラシと広報車で自主避難を呼びかけた (8:00)新湯温泉付近旧料金所跡からの県道1号線通行止め(鹿児島県) (8:30)牧園地区自治公民館長に自主避難と自主防災組織活動などについて説明 (8:45)県道1号線のいわさきホテル前から県境を通行止め(鹿児島県) 霧島市議会第1回臨時会で危機管理監が状況説明 安心安全課長、県の霧島山噴火災害対策連絡会議に出席 (11:20)気象庁が火口周辺警報を発表、 立ち入り禁止区域を3kmから4kmに拡大 (霧島市) (14:00)高千穂地区で広報車により注意を呼びかけた



県道104号線通行止め(2011.1.26/湯之野)